

# 2012年度以降のCFP事業化に向けて

## JEMAI

Japan Environmental Management Association For Industry



# 宣言1

カーボンフットプリント制度試行事業の  
成果を活用して、  
「カーボンフットプリント(CFP)  
コミュニケーションプログラム」  
として、  
**2012年4月1日以降、  
継続して運営して参ります。**

**JEMAI**



# CFPコミュニケーションプログラム

## 4つの基本方針

有力な手段として



CO<sub>2</sub>は、「地球の未来に、次の世代に責任を果たす企業」が消費者等の御理解と参加を得て、地球温暖化の原因であるGHG排出量削減に取り組んでいることを表明する有力な手段となることを目指します。

信頼性&透明性

CFPIは、国際規格ISO14067(現在策定中)に準拠した「CFP環境ラベル」事業として算定ルールの厳格な運用と第三者認証により、信頼性、透明性に優れた運用を目指します。

「エコプロダクツ」の  
代名詞

CFPIは、CFPマークを通じてその認知度の向上を図り、一般消費者をはじめとした国民全体に選ばれる「エコプロダクツ」の代名詞を目指します。

「気づき」を共有できる  
楽しいプログラム

CFPIは、製品・サービスの一生を「見える化」し、生産者、消費者等あらゆるステークホルダーがGHG排出量削減行動の「気づき」を共有できる楽しいプログラムを目指します。

# CFPコミュニケーションプログラムのイメージ

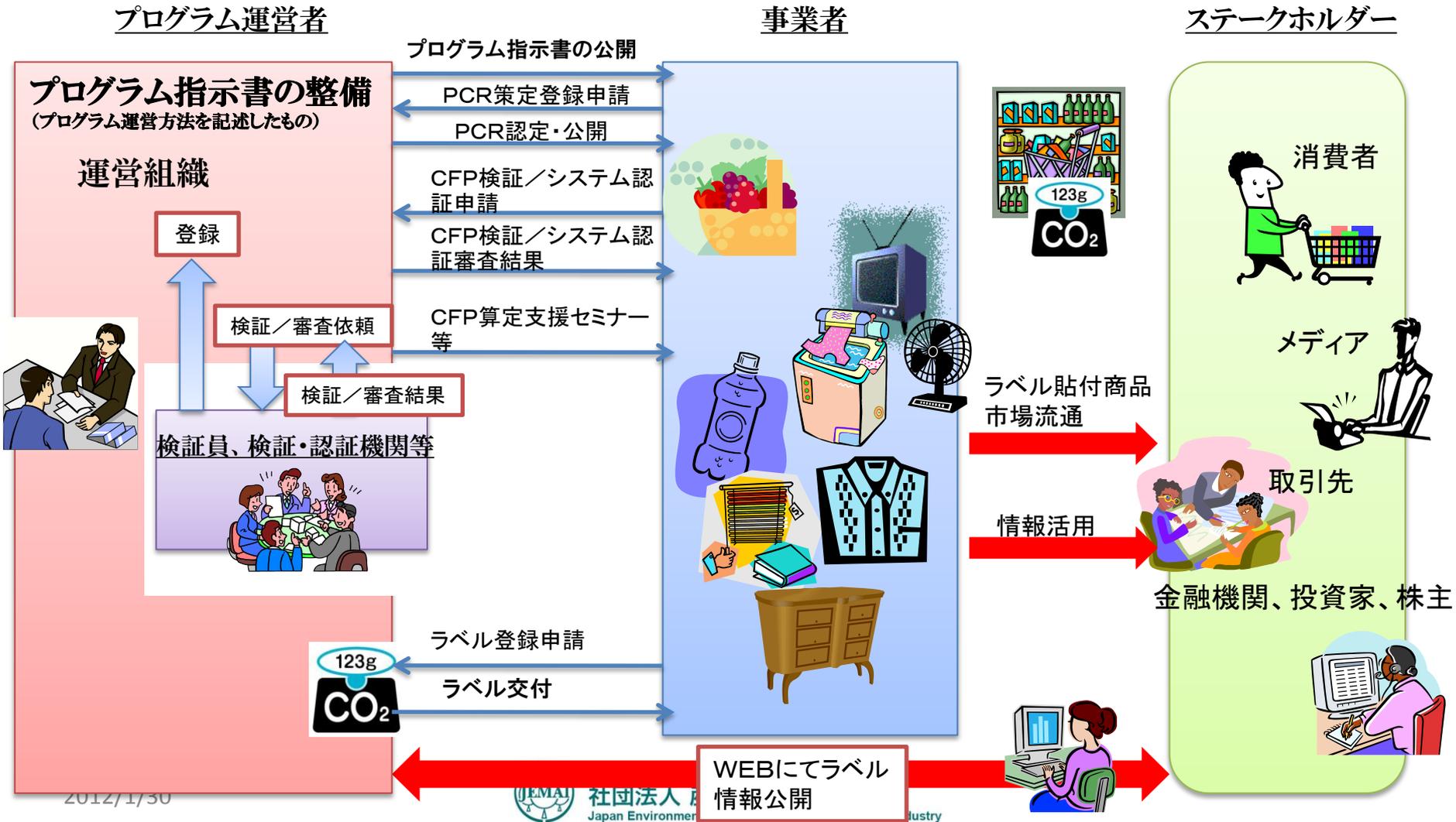
CFPコミュニケーションプログラム



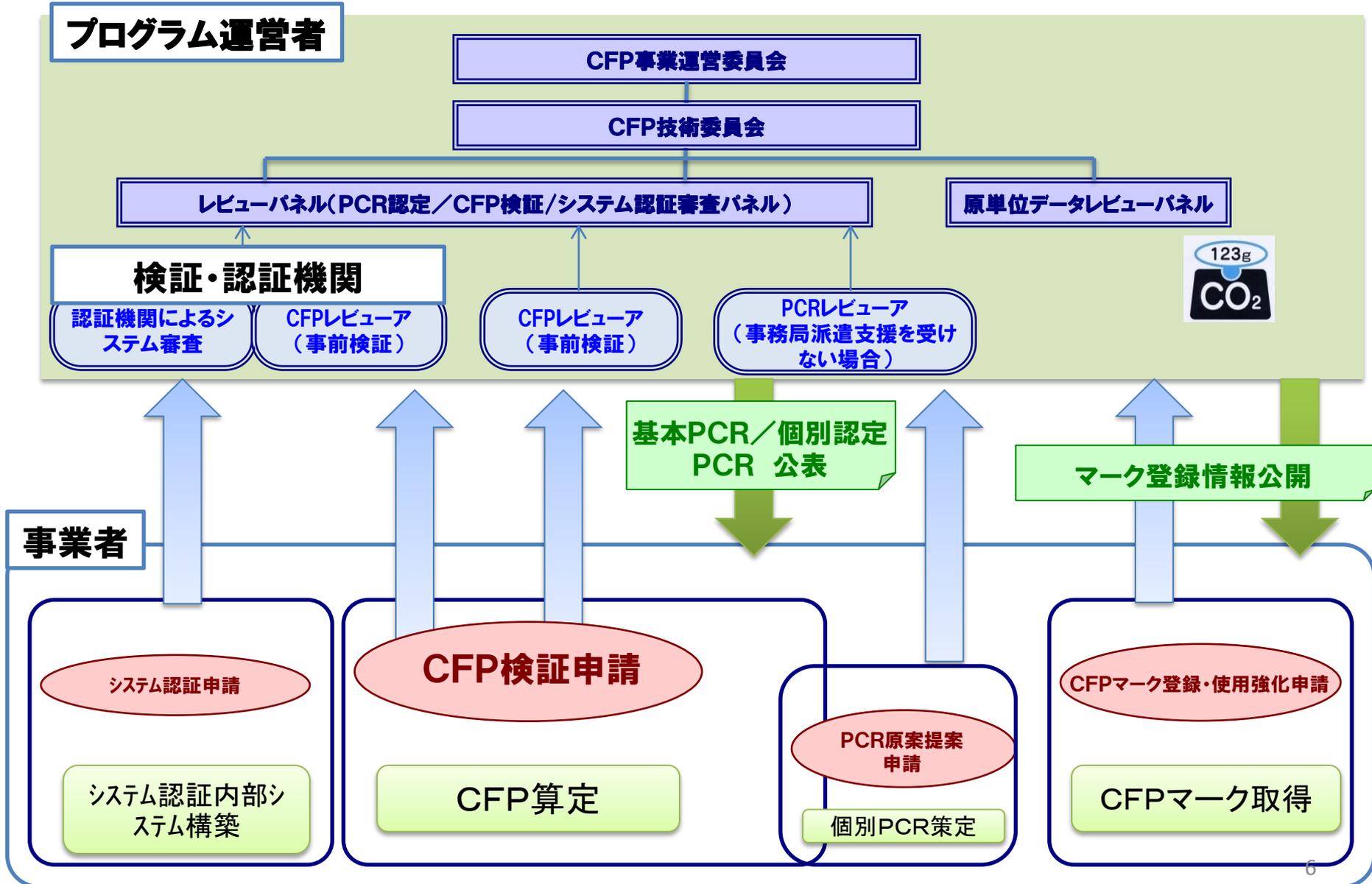
今後のCFP事業化情報は、<http://www.biz.jemai.or.jp/cfp/>で行います。

# CFPコミュニケーションプログラムイメージ

## 民間移行後のプログラムの構成



# CFPコミュニケーションプログラム運用体制(案)



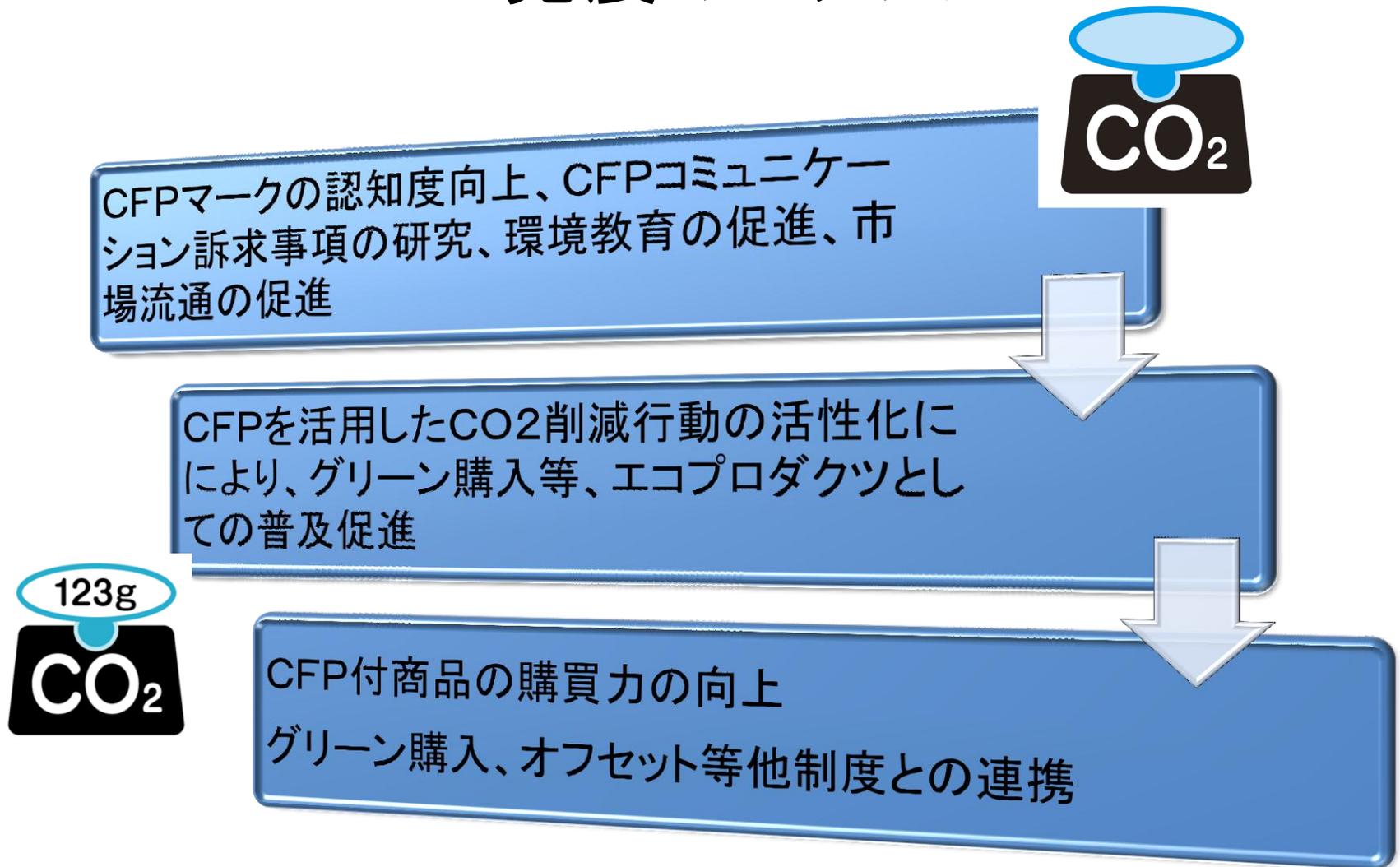
# CFP参加促進のための運用改善

試行事業の成果を下に、CFPコミュニケーションプログラムでは、より事業者の皆様が利用しやすく、ステークホルダーの皆様が情報を得やすいよう以下の主な事項について運用改善を進めます。

- ◆ PCRの要求事項の合理化
- ◆ 検証方法の多様化
- ◆ 2次データ使用の運用見直し
- ◆ マーク使用に関する運用追加
- ◆ WEBによる情報開示の充実
- ◆ 試行事業からの経過措置の適用

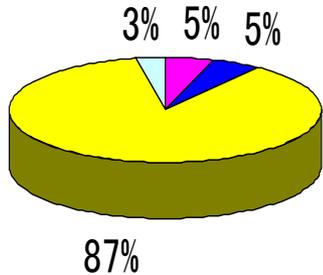


# CFP発展のステップ



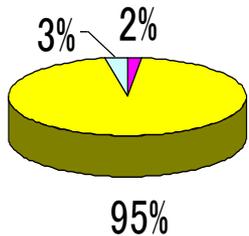
# そもそも認知度が低いのでは？

1) CFP制度に関して、ご存知でしたか？



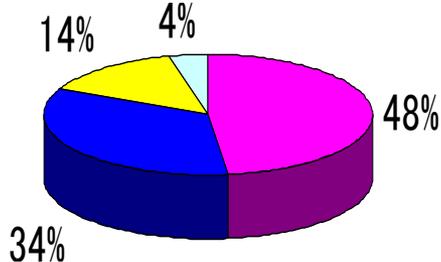
- 大体、知っていた。
- 内容は、よく知らなかった。
- 今回、初めて知った。
- 未記入

2) パッケージにCFPマークが表示してあるのは、ご存知でしたか？



- 知っていた。
- 今回、初めて知った。
- 未記入

2) CFPマークが表示してある商品に関して、どう思われますか？



- 購入のきっかけになる。
- 購入のきっかけにはならない。
- 今は、分からない。
- 未記入

出典：CFP試行事業消費者ワークショップ(8/23広島)井村屋様講演資料より抜粋

- ・ 一般のインターネット調査等では、4～6%程度の認知度と言われる。

- ・ 原因としては、マーク付製品が市場に出回る機会が少なく、まとまった情報提供はエコプロダクツ展。

- ・ 企業内部での説明も含めて、認知度が低位であることは、プログラムがいかに優れていてもその活用が拡がらない。

広範囲PCR

630g



カーボンフットプリント試行事業  
http://www.cfp-japan.jp  
検証番号:CV-BR01-003

**コミュニケーション戦**

事業者の皆様と共有して推進します。

**目指せ！2012年度  
認知度 20%**

# 企業にとってのメリットは何？

- 企業における社会責任行動のアピール
- 環境先進企業としてのブランド化
- 削減行動の取組みにより、さらにアピール度強化 ⇒  
エコプロダクツとしてのアピール
- サプライチェーンにおける改善ポイント(ホットスポット)の発見と対応 ⇒ 顧客への訴求
- 第三者の検証により、信頼性の高い情報として社内  
外での展開が可能となる。
- グローバル社会におけるサプライチェーン規制への対  
応の第1歩 ⇒ 取引先からの情報開示要求への対応

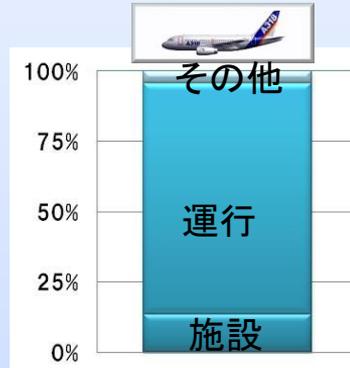


# どのようにコミュニケーションするのか？

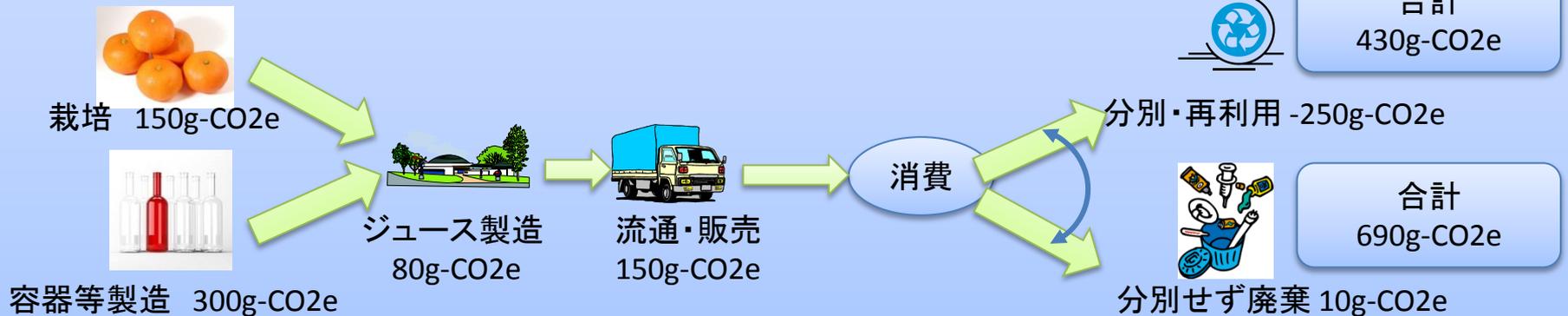
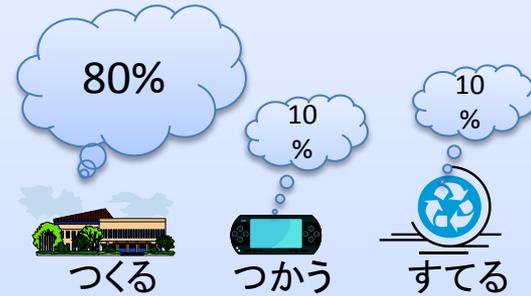
イメージ



つくる段階の影響が大きいため、製造段階での温室効果ガス削減を努力しています。



運行段階での影響が圧倒的に大きいため、省エネ性の高い機材の導入、運行に配慮しています。また、お客様の定時運行へのご協力も大変効果的です。



瓶容器の製造によるCO2排出量が多いですが、分別回収にご協力くださることにより、その影響を削減することができます。

# どういう手順で導入を進めればいいのか？

カーボンフットプリント  
に取り組もう

CO2削減とともにまずは、社としての取り組み目的を明確にしよう

有

社内にある環境経営スキルの有無／LCAって何？

無

事前教習等の受講

- ・ 研修
- ・ 相談
- ・ 個別コンサル

PCRの有無

有

無

PCR作り

- ・ 算定の容易さ
- ・ 検証のしやすさ
- ・ 透明性の確保

CFPの算定

有

不可

認定申請

検証申請

CFPの検証

不合格

第三者レビュー

検証員／検証・認証機関想定

合格

CFPマークの使用許諾



削減努力の継続

# 事業者支援(教習所)は用意されるのか？

CFP取得をはじめ目指す事業者の、皆様向けに多彩な支援機会を設けることとしています。(有償) コンサル事業は、民間のコンサル機関等の協力のもと、支援させていただきます。



## CFP算定支援研修(隔週開催予定)

- CFP概論、CFP算定演習、CFP検証申請書作成
- 隔週開催、所要時間1日



## CFP算定支援相談会

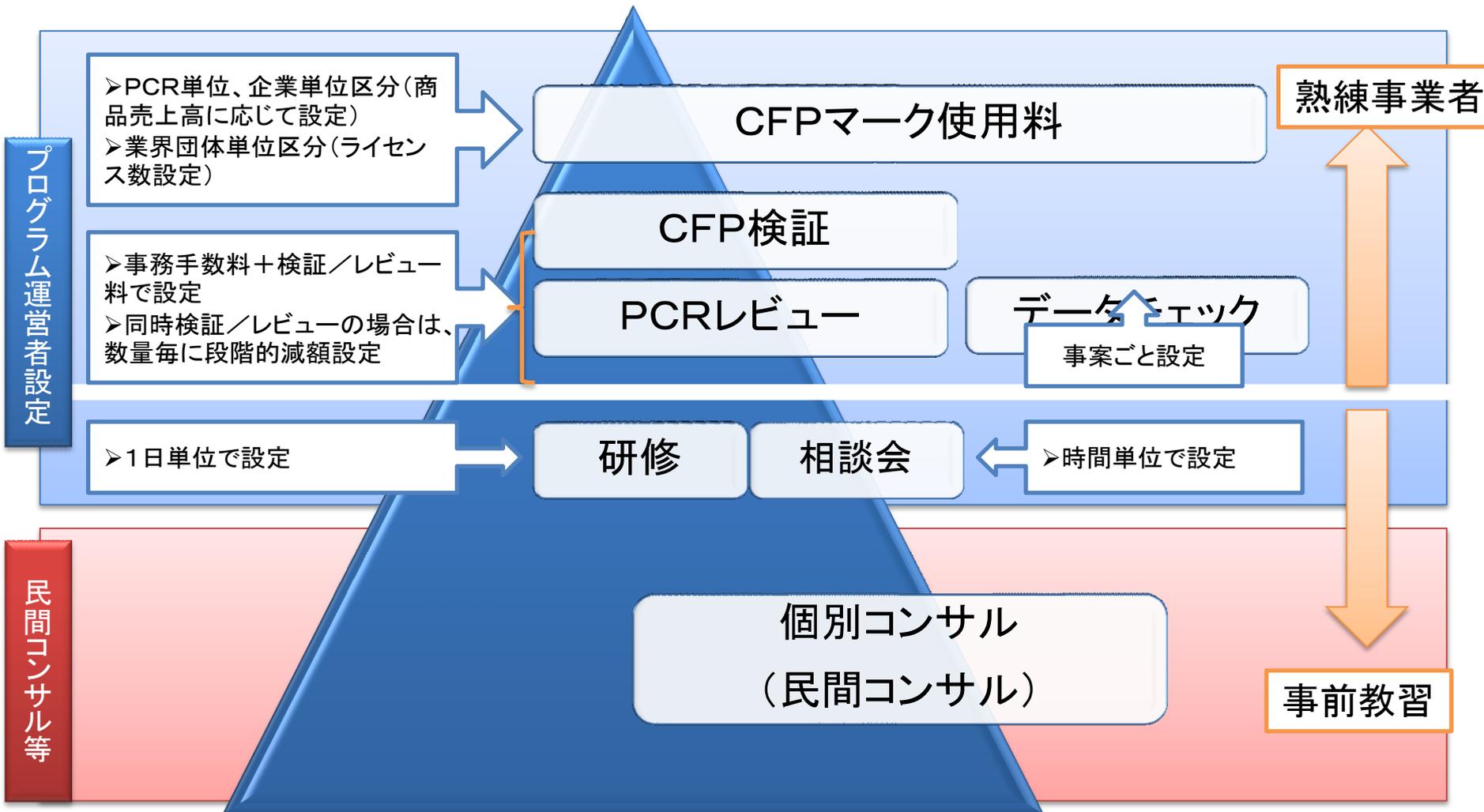
- CFP算定、マーク取得に関する定期相談会
- 算定講座の翌日開催予定、1時間単位で延長可



## CFP算定支援コンサル

- CFPの取得に関する個別企業コンサル
- エキスパートの紹介

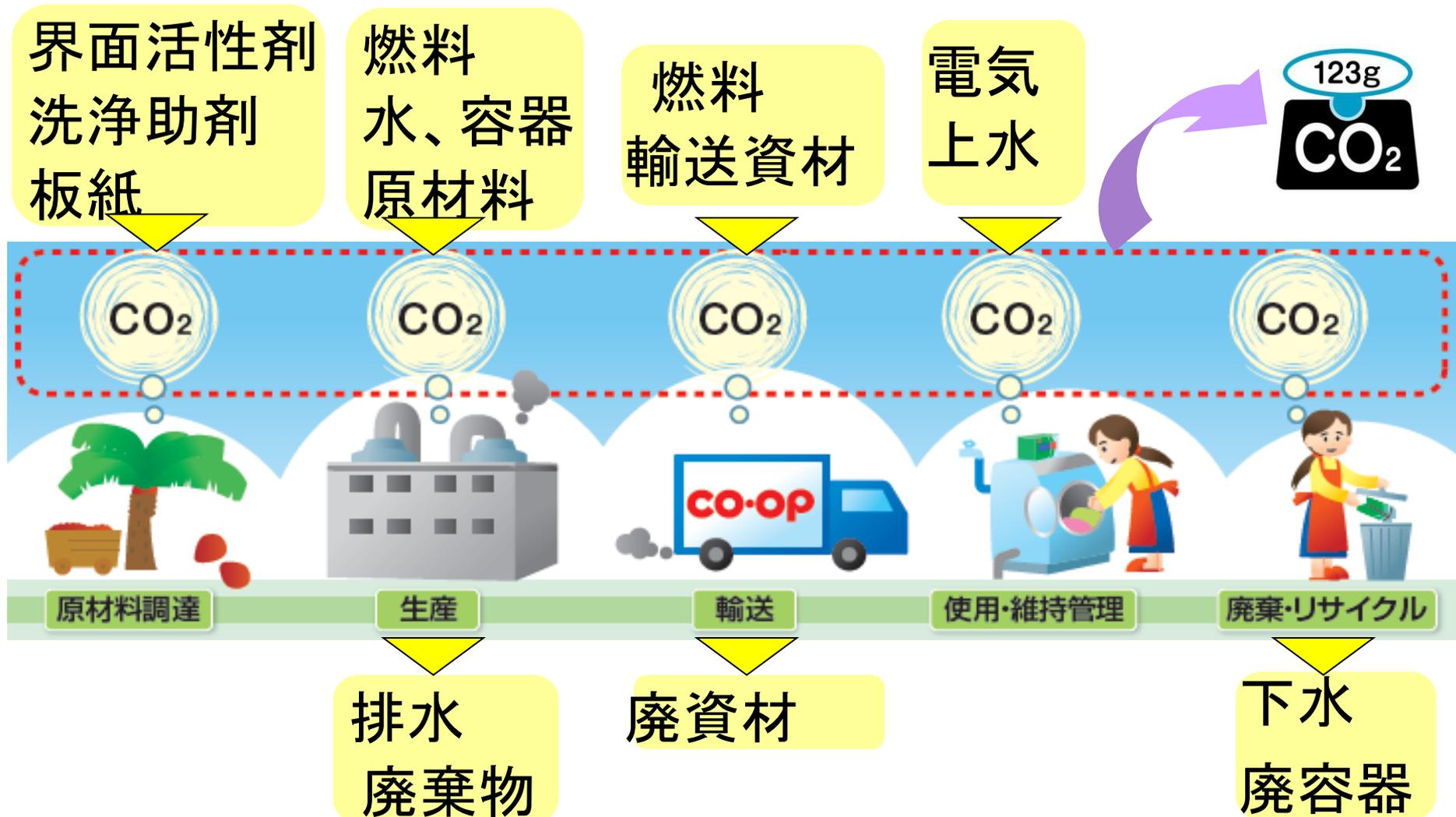
# CFPの導入にはいくらかかるの？



# 消費者の皆さんに期待されることは？

- まずは、地球の未来に責任ある企業行動等としての理解を深め、応援。
  - 削減行動など企業の地球温暖化防止に繋がる行動を把握、激励
  - 単純に数値の比較でなく、商品のライフサイクルでの負荷の把握、改善の評価
  - 使用や廃棄など自ら削減努力に参加できる部分での行動
- ⇒ まずは、「見える化」行動に対する応援  
(購買、事業者訴求の内容に関する情報収集)

# 衣料用洗剤のライフサイクル



# セフターEの算定からわかったこと

- ・消費者も多くの温室効果ガスを排出
- ・洗濯1回当たりの排出量は約280g
- ・事業者の主な排出源は、原料調達
- ・消費者の主な排出源は、洗濯による電気、上水道、下水処理

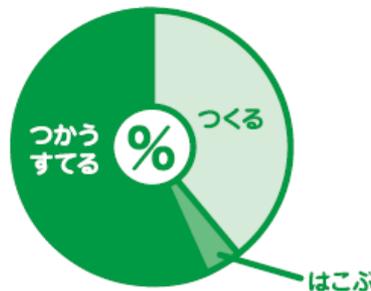


「セフターE簡易パック」の段階別排出割合

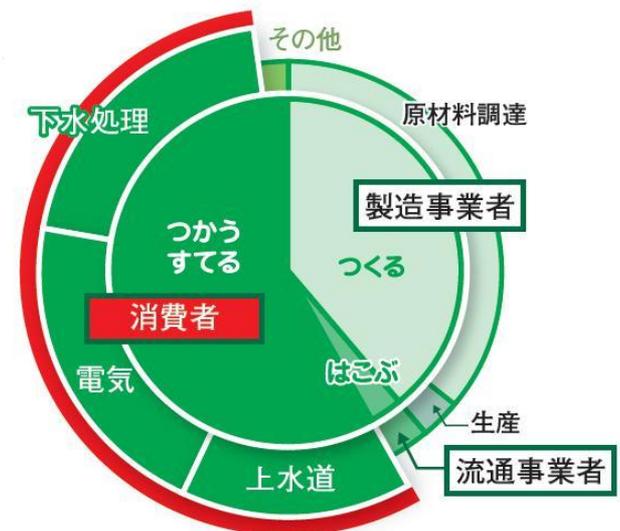


カーボンフットプリント試行事業  
<http://www.cfp-japan.jp>  
 検証番号:CV-AC02-004

商品表示



洗濯1回当たり(水位60L)のCO<sub>2</sub>排出量は280gです。



パンフレットのグラフ

# 消費者理解のための取り組みは？

- 消費者に対する環境教育プログラムの開発、充実を図る。  
⇒ 試行事業の成果活用、関係機関等との連携、リーダー養成
- CFP商品購入に当たってのインセンティブの導入  
⇒ グリーン購入など既存制度との連携等
- ソーシャルメディアの活用により、より距離感の近い情報発信と情報共有の促進  
⇒ Facebook、Twitterの活用。WEB上の個人向けサイト充実

# 行政機関の皆様へ

- CFPは、地域中小企業が環境行動をアピールする上で、有用なツール
- 地域ブランドの創生、グリーン購入、県クレジットへの活用等地域産業活性化策
- 地域においては、CFP算定を支援できる人材が圧倒的に不足
- 算定支援事業や、算定支援人材育成のための取り組み支援をぜひ！！

## 愛媛モデル

### ＜えひめCO2見える化推進事業＞

- 地域中小企業対象5社を対象に、カーボンフットプリントの算定支援を実施。  
当該算定支援を通じて、えひめ産業振興財団に「見える化」支援人材設置して実施。
- エコプロダクツ展への出展、エコ商品開発、消費者との連携による普及などを支援。  
**(東5ホール 5-062ブース)**

## 川崎モデル

川崎市「低CO2かわさきブランド」**(東1ホール 1-011ブース)**

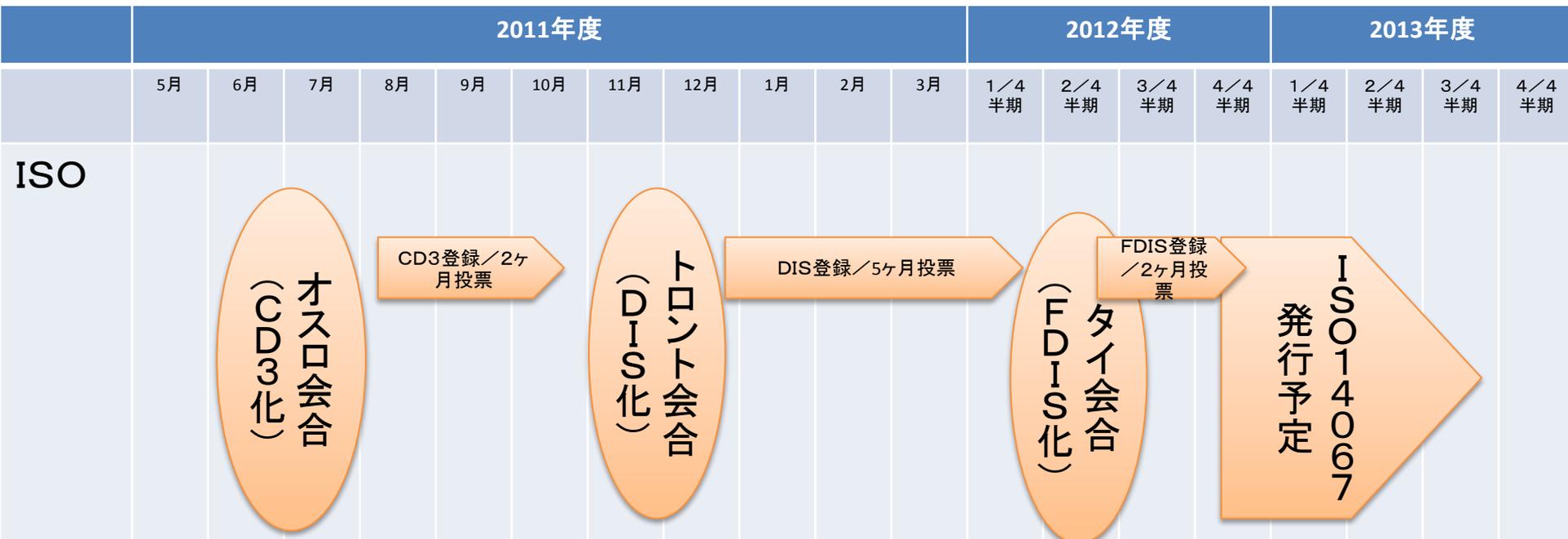
## その他

名古屋、大阪、福岡には、JEMAI地域支援拠点を設置。

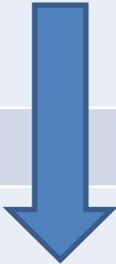


# 国際規格はどうなっているの？

- ISO14067として、2012年末から2013年初頭に発行予定
- CFPコミュニケーションプログラムは、ISO14067に準拠したプログラム運営を行ってまいります。



# 当面のスケジュール

	旧スキーム	新スキーム
2012.2中旬	CFP検証申請受付開始	
2012.4	第1回CFP検証パネル	新スキーム説明会、プログラム公開 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">○CFP算定支援研修 ／相談会開始</div> 
2012.5	第2回CFP検証パネル	
2012.6	第3回CFP検証パネル	
2012.7	旧スキーム終了	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CFP検証申請、PCR認定申請受付開始</li> <li>■ システム認証申請始動</li> <li>■ WEB更新</li> </ul> 

# 将来に向けて

- CFPは、地球温暖化領域のみの環境影響を範囲とした評価手法であるが、今後は、「水」、「資源枯渇」などさらなる多様な環境影響に対しての社会的責任が高まってくる。
- 既に、世界的には、ISO規格「ウォーターフットプリント(WFP)」、EUの新たな環境戦略「環境フットプリント」など、Single IssueからMulti-*Criteria* へと多面的な評価に対する取り組みが始まっている。
- CFPは、企業活動における環境情報開示の最初の取り組みとして、今、始める格好のツールと考えます。

# 宣言2

CFPコミュニケーションプログラムは、  
**2012年4月1日、**  
新たな運用がスタートします。  
御期待ください。

**JEMAI**

